

■ 効果の見える治水事業

愛媛県 平和通地区（松山市平和通地区）の急傾斜地崩壊対策事業

愛媛県中予地方局建設部長 わかやま しげる
若山 茂



■ 事業の概要

当該事業箇所は、松山市中心部に位置し、山頂に松山城を戴く城山の北側斜面です。

松山城は、日本三大連立式平山城の一つであり、国の重要文化財・史跡として指定され、松山のシンボルとして、また公園としても市民に親しまれており、城山は標高140m、周囲4kmの円頂形丘陵地で、全体が常緑樹林で覆われ県の天然記念物に指定されています。



松山市内を一望できる松山城

事業区間は、城山の北側990mで、脚部には住居・マンション・ホテルが連立しています。急峻な斜面のため深さ1～1.5mの崩壊跡地が多数存在しており特に脚部の急崖斜面では毎年のように落石・小崩壊が発生しているため、早期対策が望まれていました。

松山城山は史跡になっており、又観光客も多いことから当該箇所の対策工は松山城との景観を重視し、見た目に違和感のない環境負荷の低減を目指す工法を採用しました。周辺環境との調和を図る為、法枠内を客土で閉結めすることにより、コンクリート構造物を露出させず早期に環境復元を目指し、コンクリート構造物である吹付法枠を透水性コンクリートで施工し、法枠面自体へのコケの吹付による緑化を促進する方法を採用しました。さらに自然斜面部において、既存木を保全するために、伐採を伴わない地山補強土工（ノンフレーム工法）を採用しました。

当該箇所は平成11年度に事業着手し、文化庁など関係機関と協議を行いながら、松山城との調和を図りつつ、平成20年度に概成する予定です。その結果、人家105戸のほか災害弱者施設「児童福祉センター」と「愛媛保育園」が災害から保全されることとなります。

また、当建設部はハード対策のみではなくソフト対策にも重点的に取り組んでおり、本地区をはじめ各地区において土砂災害に関する啓発活動をつづけ、災害に強い快適な郷土を目指します。



地山補強土工法



コケ類、郷土種による緑化

「安全、安心日本一のまちづくり」

愛媛県 松山市長 なかむら とまひろ
中村 時広



松山市は、愛媛県の中央部、道後平野に位置し、東は西日本の最高峰石鎚山を擁する四国山地を背景とし、西は伊予灘に面し波静かな国立公園瀬戸内海が望めます。昭和20年、市街地の大部分を戦災により焼失しましたが、今日では総合的な都市機能を備え、平成12年4月には中核市へと移行し、平成17年1月には北条市・中島町と合併し四国初の50万都市となりました。

気候は、温暖な瀬戸内海気候に属し、降水量の少ない地域で、自然災害も極めて少なく、穏やかで恵まれた本市であります。平成13年3月には芸予地震、6月には梅雨前線による集中豪雨で、市内中心部に程近い高野町で土石流が発生し、尊い人命が失われました。

本市では、この被災経験を教訓とし、「安全、安心日本一のまちづくり」をテーマに揚げ、各種施策の推進に取り組んでおりますが、特に防災対策は、ハード対策とソフト対策が一体となった総合的対策が大切であると考えております。

ハード対策として、県が実施している「急傾斜地崩壊対策事業」に採択されない急傾斜地危険箇所のうち、自然がけ、がけの高さ5m以上、傾斜度30度以上、人家戸数1戸以上を対象に、県の補助を受けて「がけ崩れ防災対策事業」を実施しております。

また、自主防災組織活動の推進をソフト対策の取組みの柱とし、「みんなのまちはみんなで守る」をスローガンに、結成促進を行って参りましたところ、自治会や町内会などの積極的なご協力により、平成20年10月現在の結成率は98%と全国平均を大きく上回っております。さらに、自主防災組織間の横断的な繋がりを強化するため、本年6月には、「松山市自主防災組織ネットワーク会議」を設立し、災害時要援護者対策など住民と行政が協働した防災組織の推進に取り組んでおります。

今後とも、国、県をはじめとする関係機関、そして市民と協働しながら、「安全、安心日本一のまちづくり」を進めてまいりたいと考えています。

